

全小社研

・発行所
 ・全国小学校社会科研究協議会
 ・東京都杉並区高井戸西 2-2-1
 ・発行人 久保田 福美
 ・編集人 川崎 康雄

神奈川大会への期待

全国小学校社会科研究協議会会長
 東京都杉並区立高井戸小学校校長

久保田 福美



全国小学校社会科研究協議会(全小社研)第八十六回理事会が、六月五日に開催されました。ご多用の中を、大勢の顧問の先生方や全国の理事の皆様方のご出席をいただき、ありがとうございます。

理事会では、新しい役員体制が決まりました。また、各事業計画も承認され、本年度の全小社研の活動がスタートしました。全国の社会科教育のさらなる充実・発展に向けて、豆田啓二前会長のあとを引き継いで、頑張っています。どうぞよろしく

お願いいたします。

さて、この日、理事会終了後に、四月より新しく文部科学省教科調査官に就任された澤井陽介先生の記念講演がありました。澤井先生からは、新学習指導要領のポイントをおさえたこれからの社会科教育のあり方について、具体的にご教示いただきました。

平成二十三年からの新教育課程完全実施に向けて、今、各地区・各学校で、移行措置の取り組みが進められています。社会科においてもまた、新教材の開発や新単元の準備、各地区の副読本全面改訂等の作業が始まっています。

このような中で、第四十七回全小社研神奈川大会が、十一月十二日・十三日の両日にわたって開催されますことは、誠に意義深いことであります。

今回の大会主題は、「社会とのかかわりを実感し、自らの生き方を問い続ける社会科教育」です。子どもが社会事象を自分の生活と関連づけて理解し、「自らの生き方」を問い続ける姿が提案されます。その中で、「社会の問題に関心をもち、自分なりの問題意識を持ち続けること」「事実をきちんと見つけ、根拠をもって判断していくこと」「自らの社会的なあり方を問い続け、社会に主体的にかかわっていくこと」「生涯にわたって、よりよい社会を目指し、社会に参画し、共に生きる社会を創造していく姿」等、新学習指導要領の趣旨をふまえた貴重な提案がなされます。

折しも、横浜開港一五〇周年を迎える中で、文明開化の神奈川から発信される社会科教育に心から期待しています。

神奈川大会実行委員長の河合義昭先生を中心とした神奈川県小学校教育研究会社会科研究部会の皆様に敬意を表するとともに、全国から多くの方々がこの大会に参集され、その成果を各地域で生かしていくことを願っています。

名古屋発の社会科として、平成十六年度全小社研名古屋大会では、「ともに生きる社会を創り出す子どもたちの社会科学学習」を世に問いました。平成二十年度には、全中社研名古屋大会で「人間の生き方を問い続ける社会科学学習ー共生へのキーワード」として、名古屋の熱い思いを全国に問い、好評を得ました。全国の皆様の温かいお気持ちに感謝申し上げます。

あついで・名古屋発の社会科

全国小学校社会科研究協議会副会長
 愛知県名古屋市長島羽見小学校校長

菱田 高光



これは、よりよい社会を形成するために必要な資質や能力を育成することをねらったものと考えています。

さらに、このねらいを達成するためには、社会的事象を具体的に調べたり、調べたことを基に考えたりして得られたこと、社会的事象を比較したり関連づけたりしながら、学習で得られたことを活用できるようにすることなどの「生きて働く知識」が大切になると考えています。

名古屋は、そうした新学習指導要領完全実施を考えた取り組みとして「生きて働く知識の獲得を目指した社会科学学習」というテーマを掲げ、新学習指導要領に基づいた素材の発掘とその素材を生かした教材の開発や単元構成・学習過程・学習活動などを工夫した授業実践を進めていこうと考えています。

これは、すべて来る平成二十八年度の全小社研全国大会名古屋大会に向けての「あついで」試みと考えています。

第四十七回全国小学校社会科研究協議会神奈川大会

『社会とのかかわりを実感し、
自らの生き方を問い続ける社会科教育』

神奈川大会実行委員長 河合義昭



各学校では、平成二十三年の
新学習指導要領全面実施に向け、
特色ある教育課程の編成に取り
組んでいることと思います。

小学校の社会科学習は、「社
会生活についての理解を図り、
我が国の国土と歴史に対する理
解と愛情を育て、国際社会に生
きる平和で民主的な国家・社会
の形成者として必要な公民的資
質の基礎を養う」ことを目標と
しています。社会科の改善の基
本方針の中では、子どもが社会
的事象に関心をもって進んでか
かり、子どもの発達の段階に
応じて、それらの意味や働きを
多面的・多角的に考え、公正に
判断できるようにするとともに、
子ども一人一人に社会的な見方
や考え方が次第に養われるよう
にすることを一層求めています。

また、子どもが社会的事象に

関する基礎的・基本的な知識、
概念や技能を確実に習得し、そ
れらを活用する力や課題を探究
する力を身に付けていくために、
習得すべき知識、概念を明確に
するとともに、各種の資料を効
果的に活用し、社会的事象の意
味などを解釈したり事象の特色
や事象間の関連を説明したりす
るなどの言語活動を重視するこ
とを求めています。

さらには、日本人としての自
覚をもって国際社会で主体的に生
きるとともに、公共的な事柄に自
ら参画していく資質や能力を育成
することをめざしています。

神奈川県小学校教育研究会社
会科研究部会では、全小社研神
奈川大会を迎えるにあたり、「社
会とのかかわりを実感し、自ら
の生き方を問い続ける社会科教
育」を研究主題に設定しました。

一 大会主題について

今回の大会では、神奈川がめ
ざしてきた教育を継承しつつも、

現状を振り返り、課題を解決し
発展させたものにしたいたいとい
う思いからスタートしました。そ
して、常に大切にしてきた子ど
もを学習の主体者とした問題解
決的な学習については、今回も
受け継がれています。

まず、「社会とのかかわりを
実感し」とは、「社会的事象を
自分の生活と関係付けて理解す
ること」「社会とは何か」とい
うことを子どもなりに具体的に
認識すること」と考えています。
そのためには、子どもが事実
をしつかりみることで、その子な
りの価値観や経験と結びつけて
より深く自分とのかかわりを感じ
ながらとらえていくことが大
切です。また、人の営みそのも
のにふれながら、具体的にその
意味や価値について調べ、判断
し共感的に理解していくことが
必要であると考えています。

次に、「自らの生き方を問い
続ける」とは、「事実をきちんと
と見つめ、根拠をもって考え、
判断していくこと」「自らの社
会的なあり方を問い続けるこ
と」「生涯にわたって、よりよ
い社会をめざし、社会に参画し、
共に生きる社会を創造していく
姿であり続けること」「社会の

問題に関心をもち、自分なりの
問題を持ち続けること」と考え
ています。

そのためには、問題解決的な
学習を積み重ねていくことが大
切であり、子どもが本気で追究
していく授業をどのように創っ
ていくかが研究の内容となっております。

二 研究内容について

- (一) 子どもが社会的事象を自
分のこととしてとらえ、本気
で追究し、社会認識を深めら
れるような教材のあり方
- (二) 子どもが自らの見方・考
え方を確かなものにしていく
学習過程のあり方
- (三) 一人一人の見方・考え方
を大切にして、集団の中で個
を育てていく指導と評価のあ
り方

第四十七回全国小学校社会科
研究協議会神奈川大会「第十五
回関東地区社会科研究協議会神
奈川大会」は、平成二十一年十
一月十二日(木)十三日(金)に開
催いたします。

全国の皆様、是非十一月には、
神奈川の地にお越しいただき、
皆様の実践をもとに社会科教育
を語り合いたいと思います。
心よりお待ちしております。

第一会場

横浜市立平沼小学校

校長 齋藤 親夫

一 学校紹介

今年度創立一〇三周年を迎え
た平沼小学校は、神奈川県の県
庁所在地である横浜市の中心
部、横浜駅からほど近い場所に
位置しています。地域の特色を
生かしながら、長年にわたり学
校教育目標に「平沼に生き、平
沼でかがやく子」を掲げ、教育
活動を展開しています。

二 研究主題・研究内容

『自分のよさを生かし、
学びをつくる子をめざして』
(一) 個が生きる指導と評価につ
いて

① 個を生かす指導

集団での学びの質を高めるた
め、授業で子ども一人一人の見
方・考え方が生かされように、
個を生かす指導のあり方につい
て研究を深めています。

② 指導に生きる教師の評価、子
どもの自己評価・相互評価

個の学びの充実をめざして、
子ども自身や友達同士のかかわ
りから生まれる評価のあり方につ
いて研究を深めています。

(二)個が育つ学びについて

①新しい時代に求められる教材

開発

新学習指導要領の目標や内容を受けた学習内容を考慮した教材開発に取り組み、子どもの興味・関心を呼び起こし、追究していく価値のある魅力的な教材開発に力を注いでいます。

②効果的な資料のあり方とその

提示

教師が用意する資料、子どもが必要に応じて作成する資料の両面について指導の工夫を図るようにしています。

③問題解決的な学習の改善をめ

ざした学習過程の工夫

学習の流れや学習問題を子ども自らが生み出すことを大切にするとともに、個を育てる集団の学びのあり方について研究を深めています。

三 研究方法

個々の教師が研究授業ごとに「チャレンジポイント」を決めて授業改善に取り組み、単元を通して「注目したい児童」を設定し、その変容をみつめ、授業の成果と課題を探ったりしています。

当日は多くの先生方のご来校をお待ちしています

第二会場

横浜市立立野小学校

校長 大内美智子

一、学校紹介

開港百五十周年を迎える横浜市中区に位置し、開港にまつわる歴史的建造物が点在する地域に隣接しています。多様な文化が交わり、未来と過去をつなぐまち、横浜山手にある学校です。

二、研究主題

①研究主題：「ともにかかわり合いながら、『自分づくり』をすすめていく子の育成」

②社会科テーマ：「事実をみつめ、ともにかかわり合いながら追究することで、社会とのつながりを実感し、よりよい自分を築いていく子の育成をめざす社会科学習」

三、研究内容

①問いが生まれるような教材化
・子どもが何をどのように学ぶことが大切かを分析し、教材を開発する。

・子どもの生活経験や既習事項を探り、空間的な距離や心理的な距離をできるだけ身近に引き寄せられるような教材を開発する。

・「おや？」「あれっ」と、子どもの生活経験と「ずれ」（驚きや矛盾）が生じるような教材を開発する。

②「自分ごと」になっっていく
追究過程
・事実を実感的にとらえ、子どもの問題意識が連続する単元構成を工夫する。
・前時・本時・次時の子どもの問題意識の流れが連続するように、授業と授業の幕間の子どもを追究生かした単元構成を考える。
・子どもとの問題意識から生まれた学習問題と本時目標をつなぐ事実を吟味する。

③かかわり合う力を育てる働きかけ
・子ども一人一人の思考や子ども同士の考えの関係を授業構成に生かす。
・子どもの見方・考え方の共通点や違いを子どもが意識できるように働きかけを工夫する。

本校では、子どもの心に火を灯し、ともにかかわり合いながら問題解決をしていく授業を目指して研究に取り組んでいます。

是非、授業を参観してご指導ください。お待ちしております。

第三会場

川崎市立橘小学校

校長 松田 幸夫

一、学校紹介

本校は、川崎市のほぼ中央にあります。七世紀末創建の「影向寺」や、笛が舞う「ふれあいの森」が隣接する、歴史と文化、自然に育まれた地域です。

二、研究主題

(一)研究主題「豊かなかわり合いの中で、自らの見方・考え方をみがく社会科学習」
(二)目指す授業像「学習の中に『ゆさぶり』を効果的に取り入れ、知識の再構成を図る社会科の授業づくり」

三、研究の概要

(一)子どもの生活との結びつきを大切にし、追究する楽しさを実感できるような社会的現象の教材化
教材化では「子ども」「素材」「ねらい」の三つの関係をもとに、地域素材の教材化を積極的に行っています。大会当日は、三年生が「橘地域の花弁農家」、四年生が「橘地域と川崎市に流れる農業用水」、五年生が「京浜工業地帯の中核をなす川崎臨海

部の製鉄業と先端研究」、六年生が「川崎大空襲と戦後復興」を扱います。

(二)社会的現象を多面的に見つめ、自分の立場や考え方の問い直しを迫るような問題解決的な学習過程
子どもたちの中に、既習の知識では一見解決できない「ズレ」を生むことで学習問題を設定したり、見方・考え方の問い直しを迫るため「ゆさぶり」を行ったりします。その上で、既習知識を使って新たな知識を取り入れる「知識の再構成」を行う学習過程を重視しています。

(三)一人一人のよさを生かし、追究意欲の高まりを促すような指導と評価の一体化
本校では「ふり返り」を毎時間行うことで、一人一人の学びをみとり、単元構想の修正や、次時への活用を行っています。また言語活動を充実させ、意欲的に追究する子どもの育成を目指して、「学習ルール」を決め「グループ相談」や「話し合い活動」を重視しています。詳しい内容については、本校ホームページ(www.keins.city.kawasaki.jp/2/ke205501/)をご覧ください。

是非、授業を参観してご指導ください。お待ちしております。

全小社研事務局だより

全小社研事務局長 佐藤 繁則



平成二十一年六月五日(金)日
本出版記念クラブ会館において、

第八十六回理事会が開催されま
した。豆田啓二会長の挨拶の後、
議事に入り、二十年度の事業・
決算が承認されました。
引き続き、久保田福美新会長
の選出とともに二十一年度役員
が選出・紹介されました。
ついで、第四十七回神奈川大

- 会長 久保田福美(東京・杉並区立高井戸小学校)
- 副会長 神山安弘(東京・江東区立明治小学校)
- 田代茂利(宮城・栗原市立姫松小学校)
- 河合義昭(神奈川・横浜市立子安小学校)
- 砂田武嗣(石川・金沢市立小立野小学校)
- 菱田高光(名古屋・名古屋市立鳥羽見小学校)
- 大賀拓司(大阪・大阪市立鶴橋小学校)
- 河内澄行(山口・下松市立久保小学校)
- 檜幸正(徳島・名西郡石井町立藍畑小学校)
- 松本真(佐賀・嬉野市立大野原小学校)
- 大谷貢(神奈川・横浜市立桜井小学校)
- 小林勇司(東京・千代田区立お茶の水小学校)
- 石橋昌雄(東京・武蔵野市立本宿小学校)
- 各地区団体組織表による
- 理事 佐藤繁則(東京・板橋区立金沢小学校)
- 事務局次長 黒木信友(東京・三鷹市立井口小学校)
- 松田秀男(東京・調布市立柏野小学校)
- 泉長頭(東京・世田谷区立立赤堤小学校)
- 川崎康雄(東京・足立区立鹿浜西小学校)
- 調査研究部長
- 会報部長

会(十一月十二、十三日)の概要(第二次案内)説明と第四十八回徳島大会(平成二十二年十一月十八、十九日)の準備状況の報告がありました。

研究論文の募集

全小社研では、毎年、研究主題を設定し、研究論文を募集してその成果を冊子にまとめ全国に紹介しております。今年度も文部科学省教科調査官 澤井陽介先生をはじめ多くの先生方に論文審査をお願いし、秀でた論文を研究集録第四十五集として刊行する予定です。今年度は、左記の研究主題で研究論文の募集を行います。

- 一 研究主題
 - 「調べて考え、表現する力を育てる社会科指導の工夫」
- 二 研究実践例
 - ① 「考える力」「表現する力」の育成を目指したもの
 - ② 一人一人の児童に生きる力としての問題解決能力の育成を目指したもの
 - ③ 体験的な活動を適切に組み入れ、考えに広まりや深まりをもたせようとしたもの
 - ④ 学習の複線化等、児童の多様な願いに応えようとするもの

- ⑤ ティーム・ティーチング等の多様な指導方法を効果的に導入したもの
- ⑥ 学んだことを実社会や実生活等に活用したもの
- ⑦ 基礎・基本の確実な習得と応用、発展を図ったもの

個人会員募集

全小社研では、中央研究団体として、小学校社会科発展のため、全国各地の研究団体(正会員)と個人会員(準会員)が連携して研究活動を続け、その成果を積み上げてきました。今年度も個人会員への加入にご協力ください。

- ① 論文字数 七千二百字(A4 40字×30行×6枚 締切 平成二十二年 二月一日(月)必着
- ② 応募方法 官製ハガキに次の事項を記入の上、平成二十一年十二月十八日(金)までに事務局長にお申し込みください。
 - a 研究主題 b 実践学年
 - c 実践単元 d 応募者氏名
 - e 自宅住所 郵便番号
 - f 勤務校、所在地、郵便番号
- ③ 応募資格 正会員である団体(都道府県社研)の推薦または個人会員
- ④ 応募資格 年会費 年額千五百円
- ⑤ 発表 審査結果は二月末までに本人宛に連絡し、入選・佳作は研究集録に掲載します。
- ⑥ 問い合わせ先・応募先 郵便振替口座番号 〇〇一〇〇一六二八二五五七 (昨年と番号が違ってきます。)

東京都板橋区加賀二二一

板橋区立金沢小学校長

佐藤 繁則

TEL〇三―三九六四―三〇六八

Fax〇三―三五三五―五七七―